

## 授業概要

通勤や通学に、日々の買い物に交通が必要なことを挙げるまでもなく、私たちの日々の暮らしに交通は欠かせない。それだけでなく、私たちが日々何でも自由に手に入れられるのも、高度な「物流」に支えられている。また、私たちはいくら ICT が発達しても、face to face の重要性が変わらず自由に移動できる大切さを COVID-19 禍から学んだ。ただ、私たちはそういった交通の運賃や料金の決めり方をあまり理解しないまま、ただ示された価格で交通サービスを利用しているかもしれない。

この科目では、ミクロ経済学の手法を用いて、上記のように身近な交通を解明し、その理論を学ぶことで現実の問題分析にどのように役に立つのかを理解できるよう講義する。そして、客観的・論理的に考えた結論と現実が起こっていることの相違にも気づき、私たちの日々の暮らしに欠かせない交通について考える力を修得する。

## 授業計画

|        |                                               |
|--------|-----------------------------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス（この科目で学ぶこと、授業の基本的な流れ、履修するうえでのルール説明）      |
| 第 2 回  | 交通サービスの需要：本源的需要・派生的需要、価格弾力性                   |
| 第 3 回  | 交通サービスの供給費用：交通事業はどんな費用構成になっているのか              |
| 第 4 回  | 交通サービス市場ごとの特性：旅客と貨物、地域内（大都市・地方都市・ルーラル）と地域外    |
| 第 5 回  | 交通サービスの価格理論(1)：ミクロ経済学の視点から見た交通サービスの価格         |
| 第 6 回  | 交通サービスの価格理論(2)：限界費用価格形成と平均費用価格形成、ラムゼイ価格       |
| 第 7 回  | 交通事業の公的規制：経済的規制（運賃）と社会的規制（保安）(1)：運賃設定の実際      |
| 第 8 回  | 交通事業の公的規制：経済的規制（運賃）と社会的規制（保安）(2)：保安のトレードオフ    |
| 第 9 回  | 中間試験                                          |
| 第 10 回 | 交通混雑への処方箋：ピークロードプライシング                        |
| 第 11 回 | 地域開発の理論と交通投資：交通事業者による沿線開発                     |
| 第 12 回 | 交通インフラの整備：費用便益分析—整備新幹線を例に                     |
| 第 13 回 | 観光・まちづくりと交通政策：人口急減社会での観光立国政策と“観光公害”への対処       |
| 第 14 回 | 交通事業の技術開発と交通政策の関わり—中央新幹線（Maglev）や自動車の脱炭素化を例に  |
| 第 15 回 | これからの交通と交通政策：人口急減社会での交通政策のあり方—JR 川口駅 SS 停車も例に |
| 第 16 回 | 期末試験                                          |

## 到達目標

ミクロ経済学の理論に基づいて交通問題を分析し交通政策を提案する「交通経済学」について、その基礎を理解したうえで、交通事業や交通政策がどのような考え方で行われているのかを把握し、社会で必要な知識を修得することができる。

## 履修上の注意

- (1) ふだんから交通に関わるニュースや話題に関心を持つ
- (2) 授業の基本的な流れは、①小テスト、②講義である
- (3) 第 3 回～第 8 回・第 11 回～第 15 回は授業冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを実施する
- (4) 第 1 回にこの科目の方針などを詳細に説明するので、必ず参加されたい  
(ただし、第 1 回参加を履修上の条件としない)

## 予習・復習

- ・予習：Microsoft Teams に講義資料（レジュメ）をアップするので、一通り目を通しておき、わからない用語を調べたり、マークしておく（50 分）
- ・復習：印刷で配付された講義資料（レジュメ）に書き込んだメモを参考にしながら授業をふりかえり、次回的小テストに備えて学習した内容を見返す（80 分）

## 評価方法

①中間試験の得点率×0.33+②期末試験の得点率×0.33+③小テスト合計の得点率×0.34 の合計 100% で成績評価する。成績評価には、出席ポイント（≡小テスト受験）10.0pt 以上が必要条件である。評価方法の詳細は、第 1 回に説明する。

## テキスト

必携のテキストは用いない。以下の 2 点を参考書籍として挙げる。

- ① 衛藤 卓也・大井 尚司・後藤 藤孝夫 編著（2023）『交通政策入門（第 3 版）』同文館出版（978-4-495-44043-5）
- ② 青木 亮・須田 昌弥（2024）『交通政策への招待』ミネルヴァ書房（978-4-623-09673-2）